

朝日「慰安婦問題 核心は変わらず」

朝日新聞は28日付朝刊で、今月5、6両日に続いて慰安婦問題に関する特集記事「慰安婦問題 核心は変わらず」を掲載した。自社が朝鮮半島で女性を強制連行したと証言する自称・元山口県労務報国会下関支部員

部長、吉田清治氏の記事を少なくとも16回取り上げたこと、慰安婦募集の強制性を認めた平成5年の河野洋平官房長官談話とは関係ないとする内容だ。朝日新聞は5日の特集で吉田氏の証言について「虚偽だと判

断し、記事を取り消します」と書いたが、謝罪や訂正は行っていない。今回も自社には責任がないことを強調した形だ。また、吉田氏の証言について「韓国では一般的に知られているとは言えない」という匿名の

**特集記事掲載
謝罪・訂正せず**

韓国政府関係者の言葉を引き、韓国で慰安婦問題が過熱したのも吉田氏の証言からではなく、元慰安婦自身の証言を重視しているからだ指摘。その上で、「吉田氏の証言が問題の本質ではありえない」とする匿名の韓国元外交官の話を紹介している。

また問題すり替え



「『河野談話』、吉田証言に依拠せず」との見出しを取り、河野談話が作成されるに至ったこと、自社が執拗に吉田清治氏の「強制連行証言」を取り上げ、国内外に広めたことは無関係だと印象付けようとしているようだ。その根拠の一つとして、朝日新聞は今回、「河野談話は『強制連行』を認めた」と指摘している。

「河野談話」は、吉田氏が言う「『強制連行』ではなく、女性たちが自由意思を奪われた『強制性』を問題とした」という見解を、5日付の特集記事でも「平成5年8月の談話発表時に」読売、毎日、産経の各紙に「読売、毎日、産経の各紙は、河野談話は『強制連行』を認めた」と指摘している。

「『強制連行』を使わなかった」と主張した。だが、そこには朝日新聞が触れなかった点が隠されている。河野談話の主旨である河野洋平官房長官（当時）が、談話発表の記者会見で「強制連行があったという認識なのか」と問われ、こう答えている部分だ。

「『強制連行』を使わなかった」と主張した。だが、そこには朝日新聞が触れなかった点が隠されている。河野談話の主旨である河野洋平官房長官（当時）が、談話発表の記者会見で「強制連行があったという認識なのか」と問われ、こう答えている部分だ。

「『強制連行』を使わなかった」と主張した。だが、そこには朝日新聞が触れなかった点が隠されている。河野談話の主旨である河野洋平官房長官（当時）が、談話発表の記者会見で「強制連行があったという認識なのか」と問われ、こう答えている部分だ。

「強制連行でなく強制性」と主張

「『強制連行』を使わなかった」と主張した。だが、そこには朝日新聞が触れなかった点が隠されている。河野談話の主旨である河野洋平官房長官（当時）が、談話発表の記者会見で「強制連行があったという認識なのか」と問われ、こう答えている部分だ。

「『強制連行』を使わなかった」と主張した。だが、そこには朝日新聞が触れなかった点が隠されている。河野談話の主旨である河野洋平官房長官（当時）が、談話発表の記者会見で「強制連行があったという認識なのか」と問われ、こう答えている部分だ。

「『強制連行』を使わなかった」と主張した。だが、そこには朝日新聞が触れなかった点が隠されている。河野談話の主旨である河野洋平官房長官（当時）が、談話発表の記者会見で「強制連行があったという認識なのか」と問われ、こう答えている部分だ。

週刊新潮の広告も掲載拒否

新潮社は28日、「週刊新潮」9月4日号（8月28日発売）の新聞広告の掲載を、朝日新聞に拒否されたと明らかにした。

新潮社によると、9月4日号の広告には朝日新聞の慰安婦問題に関する報道をめぐり、「『朝日新聞』の辞書に『反省』『謝罪』の言葉はない」という文言があった。

朝日新聞が26日、「反省」の文字や読者が減っていると見出しを修正するよう求め、新潮社が拒否したところ、27日に掲載を見送ると連絡があった。新潮社の広報担当者は「言語道断。来週号で今回の問題を検証した」と話している。

朝日新聞は「週刊新潮」の広告掲載も拒否、文芸春秋が抗議文を送付したと明らかにしている。

（阿比留瑠比）